

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

皆さんは、便に血が付いていた経験はありませんか？

<問題1>そのとき皆さんはどうしますか？

- ①以前痔があったのでそのためだろうと考えて様子を見る。 ②「がん」がないか心配なので病院に行く。
③もう一回血が出るか待つ。

みなさんはどれですか？正解は②です。便に血がつく病気には痔、ポリープ、がんなどがあります。しかし、検査をするまで何が原因かは分かりません。元々痔があったとしても、がんがないという証拠にはなりません。大腸がんの患者の多くが便に血がついても痔のせいだと思って放置し、進行したがんになって見つかることが多いのです。精密検査には大腸カメラを行います。一度大腸カメラを行って、異常がなければ3年間はがんの心配をしなくてもいいと思います。便に血がつく病気として大腸ポリープもあります。ポリープは大きくなるとがんになりますので、見つければ大腸カメラで切除します。痛くもありませんし、検査と同じようにできますので早く見つけて、がんになる前に切除するのが安心です。

<問題2>大腸がん検診では便の潜血反応（便に血が混じっていないか）を調べます。通常、日を変えて2回便をとって検査に出します。あなたは検査を受けたところ、一つが潜血反応陽性、もう一つは陰性でした。さて、次にどうしますか？

- ①一つ陽性なので大腸カメラを受ける。 ②一つは陽性、もう一つは陰性でどちらが正しいか分からないので、もう一度便検査をする。 ③両方陽性ではないので様子を見る。

正解は①です。便潜血検査は一つでも陽性であれば大腸カメラを受ける必要があります。便検査は1回だけではがんを見つける能力は30%程度ですが、2回すると50%に上昇し、これを毎年受けると3年で90%の検出率になります。したがって、毎年2回の便潜血検査を受けることが大腸がんの早期発見につながります。大腸がんは年々増加しており、女性では癌死の第一位、男性では第三位です。大腸がんは進行がゆっくりですので、便潜血検査によって大腸カメラでとれる大きさのがんを見つけることができます。ぜひ恥ずかしがらずに検査を受けて下さい。

鳥取県西部行政管理組合からのお知らせ

桜の苑使用料の改定について

鳥取県西部広域行政管理組合営火葬場（桜の苑）の使用料について、平成8年度以降据え置いてきましたが、施設維持経費の増加に伴い、平成29年4月1日から改定することとなりました。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

区分			単位	使用料			
				圏域内居住者（※）		圏域外居住者	
				現行	改定後	現行	改定後
火葬	死体	大人	1体	8,000円	12,000円	45,000円	49,000円
		小人	1体	5,000円	7,000円	27,000円	29,000円
	死産児		1胎	3,000円	4,000円	20,000円	21,000円
	改葬遺骸		1体	2,000円	3,000円	17,000円	18,000円
霊安室	死体	24時間		10,000円	15,000円	20,000円	25,000円
	死産児			5,000円	7,000円	10,000円	12,000円

※「圏域内居住者」とは、死亡時の住所が米子市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町のいずれかであった人です。

ほかの区分など、詳しくは鳥取県西部広域行政管理組合ホームページ（<http://www.tottori-seibukoiki.jp/>）をご覧ください。

問合せ先 ▼鳥取県西部広域行政管理組合 施設工事課（電話 0859-29-5124） ▼桜の苑（電話 0859-35-3344）

町長との意見交換会を開催

12月7日、「所得が向上する農業を目指して」と題し、町長との意見交換会を開きました。販路拡大と農産物の特産品化、耕作放棄地の有効活用、農地集積の現状についてさまざまな意見が交わされました。

～主な意見～

- ・高島屋と海藻米提携を行い、また新たな日野町のブランドが一つできたと思う。行政としても、そうした取り組みをバックアップし、ブランド化を進めていく必要があるのではないか。また、農家も頑張らないといけない。
- ・特産品をもっとPRし、発信していく必要がある。応援隊のようなグループをつくってはどうか。
- ・農産物の販売について、日野高校の「日野高ショップ」と連携してはどうか。
- ・遊休農地、荒廃農地対策として、「ミツマタ」を栽培してはどうか。
※ミツマタ…3月～4月ごろにかけて、三つ又に分かれた枝の先に黄色い花を咲かせる。皮は和紙の原料として用いられている。
- ・耕作放棄地の有効活用が叫ばれているが、一方で荒れてしまった農地を山に返すことも必要だ。



米子高島屋との海藻米取引（昨年9月）



実例を交え、地域づくりの可能性を示す梅林さん



農業委員会を取り巻く現状について語る川上さん

地域の農業の在り方を考える 日野郡農業委員会研修交流会開催

2部の研修会でも、「二ホンミツバチによる地域づくりの可能性」と題し、二ホンミツバチ農園ひののん企画代表の梅林敏彦さんが講演を行いました。梅林さんは、二ホンミツバチから取れたハチミツを使った商品を開発するなど、町の活性化に取り組んでいる養蜂家です。講演では、養蜂における今後の特産品化へ向けた取り組みや、耕作放棄地を活用した地域づくりについて紹介しました。

どちらも、農業委員会を取り巻く課題やその解決策などを考える上で貴重な講演となりました。参加者は今後の活動に生かそうと真剣なまなざしで講師の話に聞き入っていました。

1月17日、日野郡農業委員会研修交流会が開かれました。毎年、日野郡3町の持ち回りで開催されており、今年も日野町を主会場にしての研修会となりました。今回は、農業委員会制度改正後、初めての開催ということもあり、日南町と日野町からは、新たに設置された農地利用最適化推進委員も参加しました。

研修会は2部構成で行われ、1部では、「今、農業委員会に求められていること」と題し、一般社団法人鳥取県農業会議会長の川上一郎さんが講演を行いました。川上さんは、農業委員会の役割や農地集積の現状などについて紹介し、担い手の育成や遊休農地などの活用などの課題に対して、具体的な取り組みが必要だと訴えました。